



神奈川県金融経済概況 (2023年5月)

<本件に関するお問い合わせ先>

日本銀行横浜支店 総務課 (TEL:045-661-8110)

ホームページアドレス <https://www3.boj.or.jp/yokohama/>

2023年5月11日

日本銀行横浜支店

概況

- 神奈川県は、供給制約の影響を残しつつ、緩やかに回復している。
 - 輸出は、持ち直しの動きが一服している。
 - 生産は、持ち直しの動きが一服している。
 - 設備投資は、増加している。
 - 雇用・所得環境は、持ち直している。
 - 個人消費は、一部に弱めの動きもみられるものの、回復している。
 - 住宅投資は、持ち直しの動きが一服している。
 - 公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。
- 貸出は、増加している。
- 預金は、引き続き増加している。

項目別判断の前回との比較

	前回	今回	変化
総括判断	新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している。	供給制約の影響を残しつつ、 <u>緩やかに回復している。</u>	↗
輸出	供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している。	供給制約の影響が残るほか、 <u>IT関連財需要の弱さを受けて、持ち直しの動きが一服している。</u>	↘
生産	供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している。	供給制約の影響が残るほか、 <u>IT関連財需要の弱さを受けて、持ち直しの動きが一服している。</u>	↘
設備投資	回復している。	増加している。	↗
雇用・所得環境	新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、緩やかに持ち直している。	持ち直している。	↗
個人消費	一部に弱めの動きもみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している。	一部に弱めの動きもみられるものの、 <u>回復している。</u>	↗
住宅投資	(不変)	(不変)	→
公共投資	(不変)	(不変)	→
貸出	緩やかに増加している。	増加している。	
預金	(不変)	(不変)	

設備投資

設備投資

増加している。

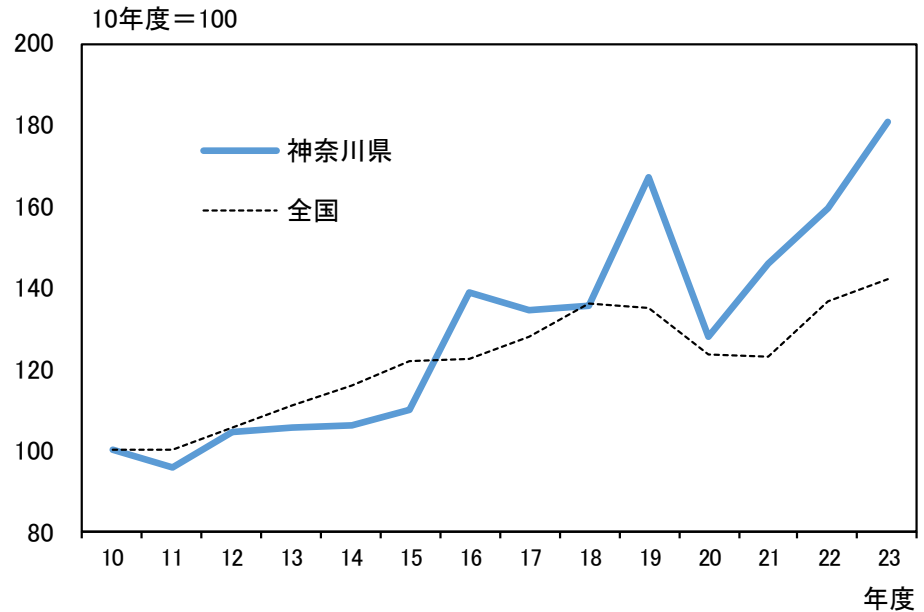
- 23/3月短観では、22年度の設備投資は、半導体関連等の能力増強投資や物流関連投資などから、前年度を上回る見込みとなっている。23年度は、3年連続で前年度を上回る計画となっている。

〔設備投資(3月短観)〕

(前年度比・%、()内は前回調査比修正率・%)

		21年度 実績	22年度 実績見込み	23年度 計画	
神 奈 川	全産業	13.9	(△ 5.6) 9.3	13.3	
	製造業	19.6	(△ 7.0) 12.3	12.9	
	非製造業	4.9	(△ 2.7) 4.0	14.0	
	全 産 業	大企業	1.4	(△ 3.7) 32.8	9.1
		中堅企業	△ 8.4	(△ 7.8) 4.9	8.3
		中小企業	3.6倍	(△15.6) △56.7	66.7
全国	全産業	△ 0.8	(△ 3.2) 11.4	3.9	

〔設備投資額の水準(3月短観)〕



(注)1.設備投資は、有形固定資産計上ベース(土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない)。
2.設備投資額の水準は、全規模・全産業ベース。21年度までは実績値、22年度は実績見込み値、23年度は計画値。

(出所)日本銀行横浜支店

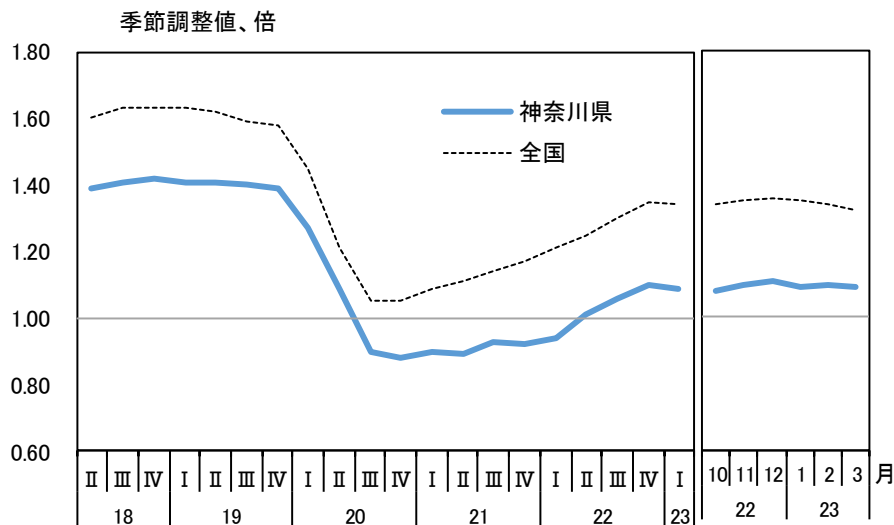
雇用・所得環境

雇用・所得環境

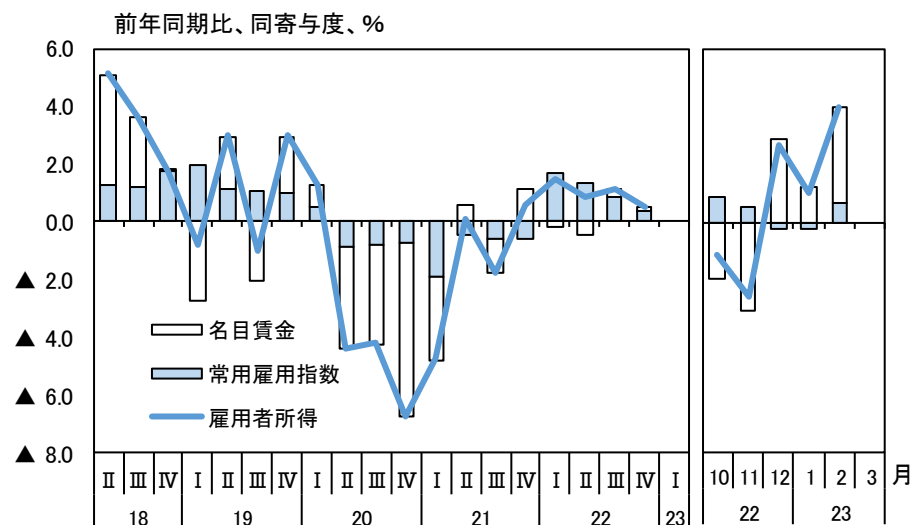
持ち直している。

- 23/3月の有効求人倍率(就業地別)は、有効求人数が減少したことなどから、前月から低下した。
- 23/2月の雇用者所得は、常用雇用者数、名目賃金ともに増加したことから、全体では前年を上回った。

〔有効求人倍率(就業地別)〕



〔雇用者所得〕



(注)常用雇用指数、名目賃金(現金給与総額)は、従業員数5人以上。
(出所)厚生労働省、神奈川県

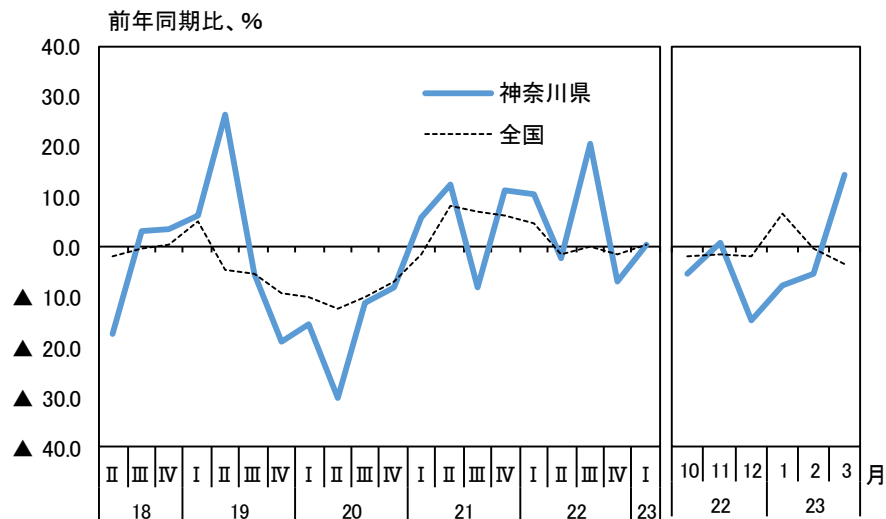
住宅投資・公共投資

住宅投資

持ち直しの動きが一服している。

- 23/3月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った。
- 23/1-3月の新設住宅着工戸数は、貸家、持家、分譲戸建てが減少したものの、分譲マンションが増加したことから、全体では前年を上回った。

〔新設住宅着工戸数〕

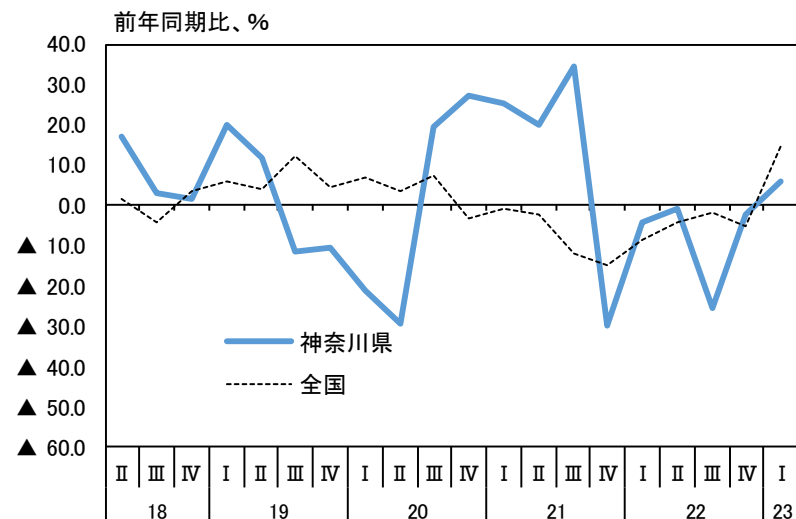


公共投資

横ばい圏内の動きとなっている。

- 23/3月の公共工事請負金額は、前年を下回った。
- 23/1-3月の公共工事請負金額は、市町村、独立行政法人等などが減少したものの、国、県などが増加したことから、全体では前年を上回った。

〔公共工事請負金額〕



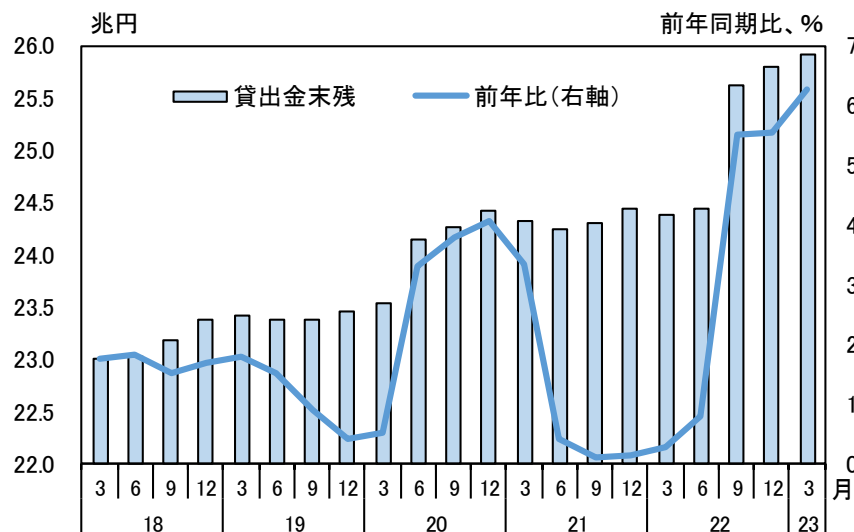
金融情勢

貸出

増加している。

- 県内金融機関(銀行、信金)の貸出をみると、増加している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金を中心に増加している。
- この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある。

〔貸出金末残〕

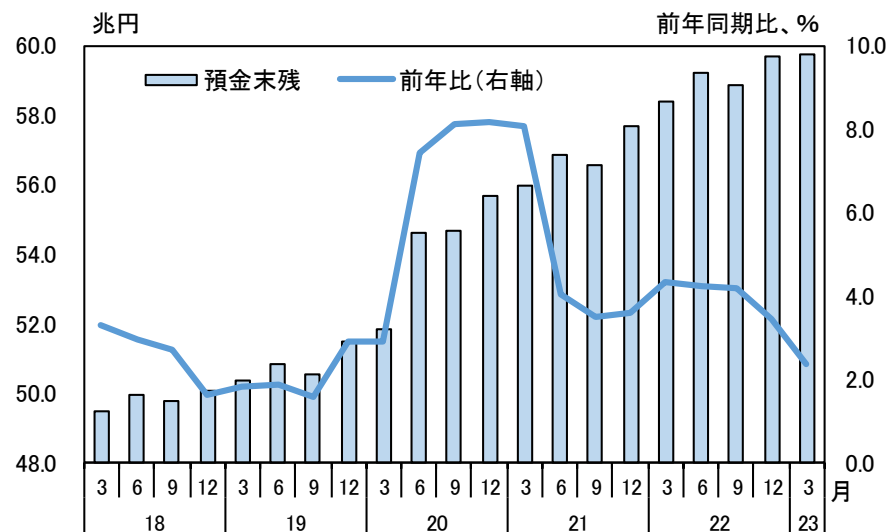


預金

引き続き増加している。

- 県内金融機関(銀行、信金)の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している。

〔実質預金末残〕

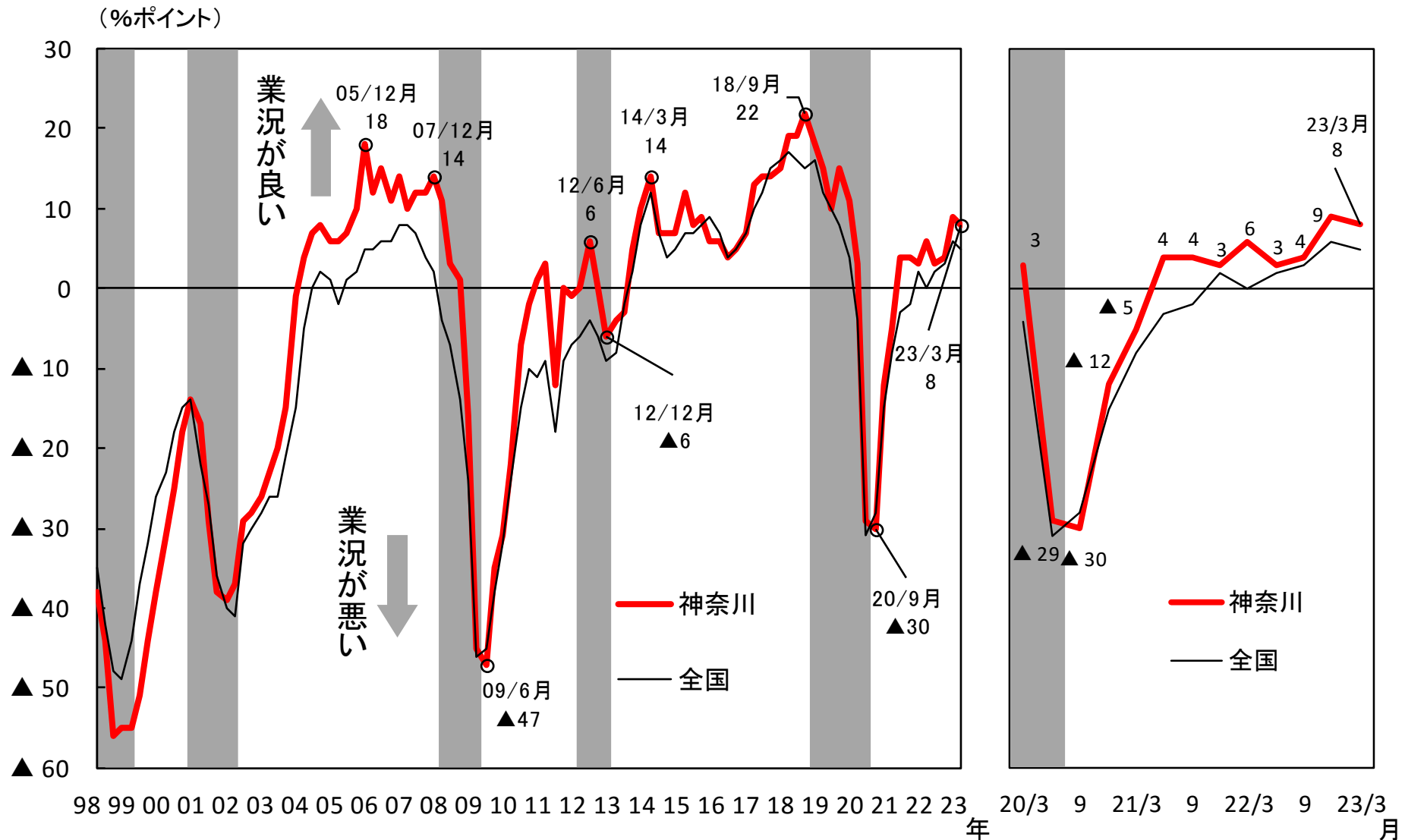


(注) 1.国内銀行の県内店舗分および県内に本店を置く信用金庫の貸出金末残、実質預金末残。
 2.貸出金については、2022年8月以降、各都道府県の計上区分を変更した先が一部にみられる。
 (出所) 日本銀行横浜支店

先行きのリスク要因

- 海外経済の減速が一段と顕著となり、外需(輸出)が低迷するリスク
- コスト高(物価高)が企業収益や家計の実質所得への下押し圧力となり、設備投資や個人消費を押し下げるリスク
- 供給制約が再び深刻化／緩和時期が後ずれし、生産が下振れるリスク

(参考)短観・業況判断D. I.



(注) 1.全規模、全産業ベース。

2.シャドーは景気後退期(内閣府調べ)。

(出所)日本銀行横浜支店